テキスト抜け、SSのトリミングや貼付位置の甘さがありますがご容赦願います。

FF14　備忘ログ(PATCH2.0)　サブクエスト

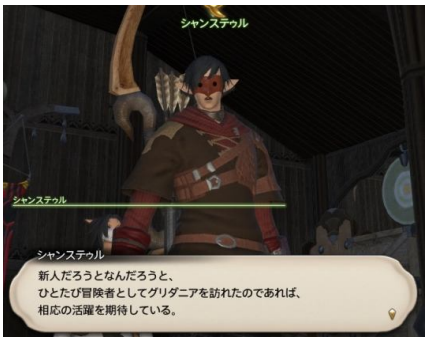
黒衣森編

グリダニア

©2010－2014 SQUARE ENIX CO.,LTD.All Rights Reserved. FINAL FANTASY XIV

求められる者

ベルナデット ： あら、見かけない顔ね。あなた、都市に着いたばかりの冒険者？
もしも腕に覚えがおありなら、弓術士ギルドの前にいる神勇隊の「シャンステゥル」を訪ねてみてちょうだい。
このところ、ずいぶんと魔物の異変に手を焼いてるみたいだから……
私たちにとっては辟易するほかないけど、あなたたちにとっては、悪くない話が聞けると思うわ。



シャンステゥル ： む、君は冒険者か？　なるほど……ベルナデットに紹介されて来たのだな。
新人だろうとなんだろうと、ひとたび冒険者としてグリダニアを訪れたのであれば、相応の活躍を期待している。
無論、その覚悟があって来たのだろう？　早速だが、確かめさせてもらおう。

幻術士メレヌの依頼

メレヌ ： そこのお前、冒険者だね？　すまないが少し、手を貸してくれないかい。
「幻術士ギルド」にいる私の弟子の「ブレイヤ」のことなんだがね、ちょいとばかし、仕事を任せすぎてしまって心配なんだ。
幻術士になったばかりでね、張り切るのはいいことだが、無茶してはいかん。行って、香油の注ぎ足しでも手伝ってやっておくれ。

ブレイヤ ： はい、わたしがブレイヤですが……　なんと、メレヌ様に言われて来てくださったのですか。
ふう……実を言うと、張り切りすぎて少し気疲れしていたところなんです。
ありがたく、お言葉に甘えさせていただきましょう。
この「アーゼマローズの香油」を、ギルドの奥にある「香台」に注いでいただけますか。
ギルドの奥にある「香台」に注いでいただけますか。残り少なくなっていたものが、ふたつほどあったはず。
くれぐれも瞑想中の皆様の邪魔をなさらぬよう、お静かに、お願いいたしますね。

ブレイヤ ： ご苦労様でした。あなたの働き、見させていただきましたよ。
冒険者というと、粗野でずぼらな印象があったのですが……　あなたの働きからは丁寧さが見て取れました。
さすがはメレヌ様、ひとを見る目がおありです。あなたも、お声をかけていただいたことを誇りに思うとよいでしょう。

彼女の要望

フ・ミバス ： ……あ！　ねえねえ、あなた、冒険者でしょ？　今ちょっといい？
この封書を、商店街の中央「木陰の東屋」にいる受付の「パーネル」に届けてほしいの。
え？　何で自分で行かないかって？
だってホラ、グリダニアの人ってなんていうか……　無愛想だし、融通が利かないから直接話すと面倒くさいじゃない。
急ぎじゃないし、何かのついででいいから。ホラ、同じ冒険者のよしみでさぁ……　じゃ、よろしくね。

パーネル ： はい、こちらはリテイナー受付カウンターです。何かご用でしょうか？
えっ……冒険者のフ・ミバスさんからの封書？　……なるほど、商店街の品揃えへの要望書みたいですね。
手紙でなく、直接言ってくだされればいいのに……。どうも、他都市からいらした冒険者の方は、我々グリダニアの人が苦手なようです。
愛想が足りないのでしょうか……それとも、親しさ……？　見慣れない方を受け入れるのに、なかなか慣れなくて。
もっと頑張らないといけませんね。

木工師と野外音楽堂

イデル ： あら、あんた冒険者？　ちょうどいいわ、ちょっと届け物を頼みたいの。
うちの新人に「ミィ・ケット野外音楽堂」の点検を任せたら、張り切りすぎて、何の道具も持たずに飛び出していっちゃって。
どうせ立ち往生してるでしょうから、追いかけてって、工具箱を渡してくれる？
工具箱は、ギルド裏の「どんぐり遊園」にいる「ルーヘリック」が持っているわ。まずは、彼に声をかけてちょうだい。

ルーヘリック ： ああ、イデルに頼まれたのか？　ちょっと待ってろ。
……ホラ、この「真新しい工具箱」をミィ・ケット野外音楽堂にいる「アートル」に届けてやってくれ。

アートル ： ……何だ？　悪いが、冒険者の相手をしている暇はない。俺には木工師ギルドの職人としての仕事がだな……
こ、これは俺の工具箱じゃないか！　どうしてあんたがこれを？
えっ？　イデルさんに頼まれて？　そ、そうか……わざわざ届けにきてくれたんだな。助かったよ。
この音楽堂は、霊災でメチャクチャになっちまったのを、ギルドの木工師たちが力を合わせて移築させ、ここまで復元したんだ。
俺、最近木工師になったばかりでさ。そんな大切な施設の点検を任されたからつい、気合が入りすぎちまってたみたいだ。
あんたも駆け出しか？　お互い新米どうし、がんばろうな。あんたにも、森と精霊の加護があらんことを。

衛士の待ち人

ドゥイメサン ： ああ、そこの冒険者。すまないが、伝言を頼めないか？
「革細工師ギルド」にいる「ミリセント」に、そろそろ交代の者を寄越すよう、催促してきてくれ。
実はもうだいぶ、時間を過ぎているんだが、俺はここを離れる訳にはいかないし……
その……彼女、ちょっと気が強くて、直接は言い難いんだ。な、頼むよ。

ミリセント ： ……何？　ドゥイメサンが、そろそろ交代の者を寄越せと？
はぁ、あいつめ、先日のイクサル族の襲撃で、衛士の人手が足りんのを忘れたのか。
おまけに、どこのチョコボの骨ともわからぬ余所者に伝言を頼むなど、無用心にも程があろう。
新人とは言え、鬼哭隊の一員たる意識が足りん。
……っと、気を悪くしたらすまないな。余所者は疑ってかかるのが、我らの仕事ゆえ。
まあ、お前は部下の頼みを聞いてくれたようだし、一応、話を聞く耳は持ち合わせているようだ。
くれぐれも我らの邪魔をせぬよう、働いてくれよ。

一挙両得

パルセモントレ ： 冒険者の割に、暇そうな顔をしておるな。よかろう、ならばこのワシが直々に仕事をくれてやる。
ほれ見ろ、ここに、鬼哭隊からの注文書がある。お前さんの仕事はな、注文された品を調達して、
依頼人のセイングレドに届けることじゃ。
頼まれた品は次の3つ……　「骨製の穂先」、「蜜蝋の保革油」、「丈夫な荒縄」じゃ。
どれも、この商店街の中で揃えることができる品じゃ。店員には、ワシの使いだと伝えれば、品を受け取れよう。
お前さんも仕事にありつけて、ワシも肩の荷が下りるとくれば、一挙両得。
まさに、互いに利を得る「よい取引」の見本じゃろう？
うーむ、さすがワシ！　それ、キビキビ働いてくるがよい！

道具屋 アドミランダ ： いらっしゃいませ、冒険者さん。本日は何をお求めでしょうか？
おや、パルセモントレさんのお使いでしたか。「蜜蝋の保革油」は、こちらにご用意してあります。
どうぞお持ちになってください。

ガースシド ： 何だ？　まだ準備中だぞ。
ああ、パルセモントレの爺さんの使いか。なになに……「骨製の穂先」か。
それなら、ほら、こいつだ。持っていきな。

雑貨屋 アラリック ： らっしゃーい！　やあ、いいところに来たね。たった今ちょうど、この品がお買い得に……
……え？　パルセモントレさんのお使い？　ちぇ、なぁんだ、張り切って損したぜ。
ハハハ、悪ィ悪ィ。えーっと確か、「丈夫な荒縄」だったよな？　ほら、持っていきな。

セイングレド ： 何だ、貴様。パルセモントレ殿からの届け物だと？
おお、これは……。なるほど、確かに依頼していた物品だ。
急な依頼であったにもかかわらず、こうも素早く品をととのえるとは……　つくづく、かの御仁には頭が上がらぬ。
配達、ご苦労だった。貴様も、パルセモントレ殿の手腕を見習い精進したまえよ。

兄貴分の務め

ニコリオー ： あ！　お前、冒険者だろ？　なあなあ、ちょっと手伝ってよ。
冒険者は、報酬をもらえればなんでもやるんだろ？　すぐそこにいる「オニィー」を笑わせてあげてほしいんだ。
たぶん、見慣れないお前を怖がるだろうから、まずは「お辞儀」で挨拶して緊張をほぐしてやってよ。

オニィー ： ……。
……こんにちは。

ニコリオー ： そしたら次は、仲良くしてみてくれ。オニィーに会えて嬉しいって、「喜んで」あげるんだ。

オニィー ： ……わたしも、うれしい、かな。

ニコリオー ： よし、ばっちりだ！　あとはさいごの仕上げだぞ。オニィーを笑わせるために、「踊って」みせてくれ。

オニィー ： ……。……ふふっ。
あはは っ。おねえさん、踊りがじょうず。よかった、怖いひとじゃないのね。
なんだか、嬉しいきもちがするわ。おねえさんの、おかげかな？

ニコリオー ： ごくろうだったな。なかなかシゴトのできる冒険者じゃないか。
オニィーは、5年前の戦いで父親が死んじゃってからあまり笑わなくなっちゃったんだ。
だから、こうやって俺が笑わせてやるんだ。俺は、どんぐり遊園の兄貴分だからさ。手伝ってくれて、ありがとな。

困りの種実

サミアヌ ： あら、何かご用かしら……　……って、わ、わ、わ！　ちょっと待って！　止まって、止まって！！
ああああ、やっぱり……！　花の実を入れてた袋に、でっかい穴が……っ！
すみません、通りすがりのあなた！　道にばら撒いてしまった「アーゼマローズの実」を拾うのを手伝ってくれませんか！？
私が歩いてきた道……　ここから農場までの道を辿って、拾い集めてください！　どうか、お願いします！

サミアヌ ： 実を拾い終わったんですか！？　……踏んづけたり、してないですよね？
ありがとうございます！　お陰で、この通りを花だらけにしなくて済みそうです。
うふふ……もちろん、都市が草花でいっぱいになれば美しいでしょうけど……
植物にはそれぞれ、過ごしやすい場所があるんですよ。
手伝ってくれて、ありがとうございました。親切なあなたに森と精霊の加護がありますように。

音楽堂の掃除依頼

エステヌ ： おや？　あんた、見かけない顔だね。まあいいや、ちょいと話を聞いとくれよ。
あたしゃ、ここ「ミィ・ケット野外音楽堂」の管理人をやってるエステヌってんだ。
昨晩、イタズラ好きのシルフ族どもが音楽堂に入り込んで、騒いでたみたいでね。
まあ、そりゃ構わんのだが、音楽堂を使った礼のつもりなのか、カボチャやらニンジンやらを山のように置いていったんだよ。
あたしひとりで片付けるには量が量でね……。ちょいと手伝ってくれんかい？　広場をまわって、置きっ放しの野菜を片付けておくれ。

エステヌ ： ご苦労さん。すっかり片付けてくれたみたいだね。助かったよ。
礼といっちゃなんだが……　見てのとおり、この音楽堂は皆に開放してる。催し物がないときは自由に使ってくれて構わんよ。
野菜はカーラインカフェにでも預けようかねえ。森と精霊と、イタズラ好きの気まぐれに、感謝を。あんたも、ありがとうよ。

縁の下の厄介者

ボアズロン ： おい、お前、新人の冒険者だな？　丁度いいところに来た。
近頃、夜な夜な槍術士ギルドの床下に侵入し、柱をかじる魔物「スクウィレル」を6匹ほど討伐してもらいたい。
幸い、深刻な事態には至っていない。ゆえに鬼哭隊や神勇隊の手を煩わせるほどのことでもないのでな。
逆に言えば……　この程度の仕事もこなせない冒険者ならグリダニアではやってはいけないだろうよ。
やっていけなくなった冒険者は……　と、まあ、その話はいいか。
スクウィレルは、普段は中央森林に生息している。討伐を終えたら戻ってこい。お前がまともな冒険者であることを願ってるよ。

ボアズロン ： スクウィレルを討伐したか。ご苦労だったな。お前が使える冒険者で何よりだ。
ん？　ロクに仕事をこなせない冒険者はどうなるのかって？
そりゃ当然、都市にゃ居場所はないからな。都市を去った者が行きつく先といえば……　ま、そのうちわかるさ。

信頼のつぼみ

エテルレッド ： ……冒険者、勝手な奴ら、多い。俺、冒険者、あまり好きじゃない……けど……
俺の依頼、聞いてほしい。この、「アーゼマローズ」を……　豊穣神祭壇の、道士「ウォルデュー」様に届けてくれ……。
……頼んだぞ……。

ウォルデュー ： これはこれは、珍しい客人がいらっしゃいましたね。ご用件を伺いましょうか。
「アーゼマローズ」……　確かに、農場の園芸師に依頼していた品。つまりエテルレッドが、あなたにこれを……？
そうですか。まさか彼が冒険者に仕事を頼むとは、いやはや……
グリダニアの草花は、他都市で良い値がつくそうで、いっときは、ずいぶんと森を荒らされました。
……彼はそのことを、今でも許せぬと言います。
けれども……不信を乗り越え、歩み寄ることが大切だと……そのための一歩が何より尊いと、
我らが幻術皇カヌ・エ・センナ様は、説かれました。
エテルレッドの元を訪れた冒険者があなたであったこと、そして、あなたを頼った彼の勇気を嬉しく思います。
善き冒険者を遣わした、精霊と森に感謝を。さ、礼をお受け取りください。

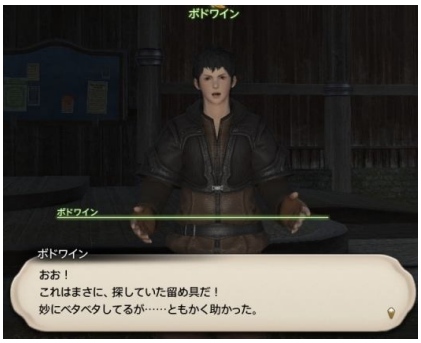
儀式に備えて

ブレイヤ ： 碩老樹瞑想窟に仕える幻術士として、あなたに、お願いしたいことがあります。よろしければ、力を貸してください。
実は、近日に予定される託宣の儀式にて、「緋色の虫油」が必要なのですが……　お恥ずかしながら、十分な量に達していないのです。
緋色の虫油は、バノック練兵所の付近に生息するレディバグという魔物から得ることができます。
お手すきの時で構いません。どうか、6体分の緋色の虫油を調達し、ここ、幻術士ギルドまでお持ちください。

ブレイヤ ： ご苦労さまです。緋色の虫油は集まりましたか？
ありがとうございます。これで、儀式に必要な量が整いました。
心ある冒険者をお遣わしくださった、森と精霊に感謝を。ささやかですが、お礼をお受け取りください。

ツリースピーク厩舎の金具

タタソサ ： むぐむぐ……　……むぐぐ？　なんだこれ……木の実じゃないぞ……。
ツリースピーク厩舎で拾った、木の実のなかに、なんだか金具みたいなのが紛れてたんだぞ。
これ、食べられそうにないぞ。きっと何かの部品だぞ。
もうお腹いっぱいで動きたくないんだぞ。お前、ツリースピーク厩舎まで届けてほしいんだぞ。
ツリースピーク厩舎なら、黄蛇門から行けるんだぞ。ここからだとちょっと遠いから、まずは「黄蛇門」の
「バルナボンタン」に道を聞くといいぞ。



バルナボンタン ： ツリースピーク厩舎に届け物か？　それなら、この門を出てまっすぐ南西へ進むといい。
君が持っているのは、チョコボのくつわの留め具のようだ。ならば、ツリースピーク厩舎で「ボドワイン」を探すといいだろう。
ボドワインは、ツリースピーク厩舎の厩務員だ。その留め具がなくて困っているかもしれん。

ボドワイン ： うーむ、困ったな……。
チョコボの「くつわ」のことだ。くつわの留め具を失くしてしまってな。
ツリースピーク厩舎で使うくつわは、チョコボ1羽1羽に合わせて作られている。新しいものを用意するとなると手間がかかるのだが……
と、お前が持っている「小さな金具」は、もしや「チョコボのくつわの留め具」じゃないか？
おお！　これはまさに、探していた留め具だ！　妙にベタベタしてるが……ともかく助かった。
これでチョコボの訓練を続けられそうだ。ありがとよ。これは礼だ、とっておきな。

小さな預かり物

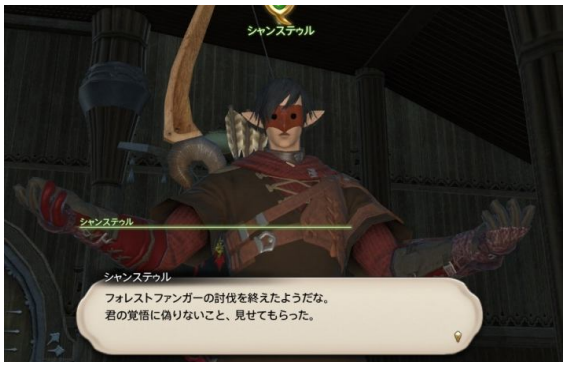
セレスティーヌ ： ねえアンタ、暇そうじゃなぁい？　じゃあさあ、私のお願い聞いてくれるよねえ？
ほら、「バノック練兵所」ってあるでしょ？　そこに、この「糧秣袋」を届けてほしいのよねえ。
中身は……干し肉とか言ってたかしらぁ。
さっき、うちらが受けた依頼なんだけどぉ、こんな地味な仕事、うちらには似合わないしぃ、
新人っぽいアンタならちょうどいいと思ってさぁ。
あ、報酬も受け取っちゃっていいから。じゃ、ヨロシクねぇ～。

ツブ・カマゾン ： なんだ？　私に届け物だと？
ああ、確かにこれは私が頼んでいた品だ。君が依頼を引き受けてくれたんだな。
ここから都市まで大した距離じゃないが、森では、何があるかわからない。戦う術のない者にとっては決して安全ではないのだ。
依頼を引き受けてくれて助かった。よかったら、またカを貸してくれ。

異変の胞子

シャンステゥル ： 都市を出たところに「フォレストファンガー」という魔物が生息しているのを知っているか？
近頃、この魔物らに異変が報告されている。繁殖期でもないのに、やたらと胞子を飛ばすというのだ。
多量の胞子が付近の植物に付着し、森林の成長の妨げとなっているという……。
このためフォレストファンガーを間引きすることになった。
そこで、君にも協力してもらうとしよう。フォレストファンガーを6匹ほど、討伐してもらいたい。
1対1ならば恐れるような魔物ではないが、くれぐれも油断はせぬよう。任を終えたならば、速やかに戻るように。

シャンステゥル ： フォレストファンガーの討伐を終えたようだな。君の覚悟に偽りないこと、見せてもらった。
この働きは、確かにグリダニアの糧となることだろう。ご苦労だった。



挑戦、ギルドリーブ

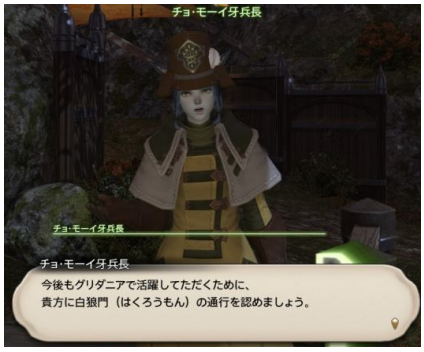
ゴントラン ： あなたのご活躍、ミューヌさんから伺っていますよ。ぜひ、冒険者ギルドで取り扱っている「ギルドリーヴ」を引き受けてみませんか？
「ギルドリーヴ」とは、我が冒険者ギルドに寄せられた周辺市民からの依頼を、冒険者に斡旋・分配する仕組みです。
内容は、魔物退治のような「傭兵稼業」から物品製作といった「製作稼業」など、さまざまです。
冒険者にとっても、腕を磨くよい機会となるでしょう。
よろしければ「ベントブランチ牧場」の「ティルニー」に声をかけ、実際にリーヴを引き受けてみてください。

ティルニー ： こんにちは。私は、冒険者ギルドのティルニー。ベントブランチ牧場で、ギルドリーヴの案内をしています。
ゴントランさんから紹介のあった冒険者ですね？　それではさっそく、リーヴの依頼を……
……と、言いたいところですが、まずはあなたに、ベントブランチ牧場周辺の依頼を任せられる実力があるか、確認させてください。
私が取り扱っているギルドリーヴをお見せしますのでこの依頼に挑戦していただけますか？
ありがとうございます。アノールは危機を察知すると仲間の元に逃げてしまいます。
仲間と合流される前に、倒してしまうといいでしょう。

ティルニー ： 無事、依頼を達成できたようですね。それでは、ギルドリーヴの報酬を受け取ってください。
あなたの実力をしっかり見せていただきました。あなたなら、この付近の仕事を任せることができそうです。
ベントブランチ牧場周辺の治安維持のため、これからどしどし働いてくださいね。期待しています！

グリダニアの白狼門

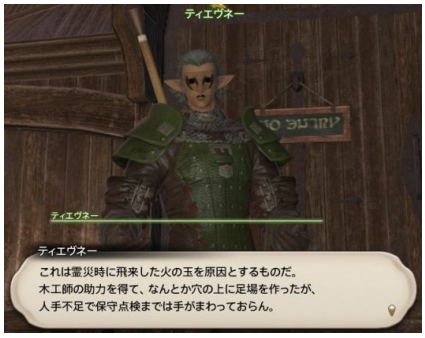
チョ・モーイ牙兵長 ： あなたは、冒険者◆◆◆ですね？　貴方の活躍は、多方面より聞いております。
今後もグリダニアで活躍してただくために、貴方に白狼門（はくろうもん）の通行を認めましょう。
こちらの「白狼門通行許可証」をお持ちなさい。これを白狼門の「フランシュモンティオ」に渡せば、通行許可が下りるでしょう。



フランシュモンティオ ： 白狼門の先は危険な魔物が多い。もし、この門を通りたいのであれば、白狼門通行許可証を持ってくるがいい。
これは白狼門通行許可証……。双蛇党から通行許可が下りたのだな、よろしい。
冒険者◇◇◇ ◆◆◆よ。以後、白狼門の先に用がある際は、私に声をかけるがよい。

ダンスタン監視哨の悩み

ルストバン ： 白狼門の通行を許された冒険者とは貴殿か？　……これは失礼、私はルストバンと申す者。
お見受けするところ、相当な実力を持っておられるようだ。
ついては、この先にある「ダンスタン監視哨」に赴き、鬼哭隊の同輩「ティエヴネー」にご助力いただきたい。
かの者は、貴殿のような御仁の力を必要としているのだ。



ティエヴネー ： ルストバンから聞いて……？　あいつめ、うれしい気づかいをしてくれる。……周辺の大穴とその上の足場には、お気づきか？
これは霊災時に飛来した火の玉を原因とするものだ。木工師の助力を得て、なんとか穴の上に足場を作ったが、
人手不足で保守点検までは手がまわっておらん。
そこで、足場の点検を手伝っていただきたいのだ。湿気た木には「シュラウドアリオン」が付くことも多い。
もし見つけたら、駆除をお願いする。

ティエヴネー ： やはりシュラウドアリオンが現れたか……。冒険者殿、ひとつ頼みがある。
マルセットなる女にだけは、このことは伏せてもらえまいか。
その女、魔物の研究をしている博物学者なのだが、とにかく変わった御仁で……足場に魔物が現れたと知れば、
床板を剥がして調査をしかねんのだ。
しかも、そうなれば鬼哭隊はあの女の下僕扱い。周辺の鬼哭隊の手が足りぬのは、彼女のせいでもあるのだ。
……冒険者殿も、重々気をつけることだな。

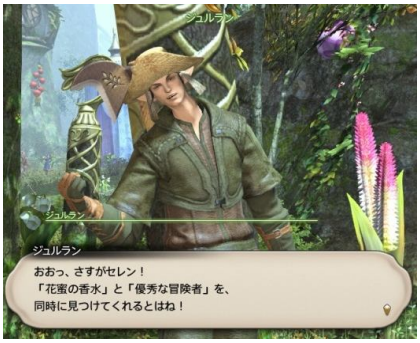
我が唯一の望み

ブレイヤ ： 最近、碩老樹瞑想窟では、あなたの活躍ぶりが話題になっています。冒険者のあなたが、新風を吹き込んでいる、と。
そんなあなたに依頼があります。「北部森林」の「フォールゴウド」に、見たこともない「美しい手負いの獣」が現れたというのです。
森に害成す存在ではないようですが、手負いの獣となれば、何が起こるか分かりません。
ぜひ件の獣を探し出し、癒してあげてください。

ブレイヤ ： おかえりなさい。それで……いかがでしたか？
……なるほど、純白の毛並みに四つ足、そして鋭い一本の角となれば……　その獣は「ユニコーン」とみて間違いないでしょう。
「ユニコーン」は、北方のクルザス地方の奥地に棲息する珍しい獣で、そう簡単には人に慣れないと伝え聞きます。
傷を癒したとはいえ、懐かれてしまうとは……　あなたの徳の成せる技といったところでしょうか。
ぜひ新たなる友を、大切になさってくださいね。

優秀な冒険者

セレン ： 同僚の園芸師からね、頼まれごとをされてるの。グリダニアで「花蜜の香水」と、「優秀な冒険者」を探してきてくれって。
「花蜜の香水」は何とか手に入ったんだけど、優秀な冒険者がなかなか……あら、今やっと手に入ったわ♪
ねぇ冒険者さん、この「花蜜の香水」を持って、「シルフの仮宿」にいる「ジュルラン」のところに行ってくれないかしら？



ジュルラン ： おや、君は……。も、もしかして「優秀な冒険者」ってやつかい！？　ということは「花蜜の香水」も持ってたりして……？
おおっ、さすがセレン！　「花蜜の香水」と「優秀な冒険者」を、同時に見つけてくれるとはね！

漆黒の亡霊騎士

※砂の家クエスト『黒衣森の伝説』からの連続クエスト

リュウィン ： さっそくだが、未確認の蛮神についてだ……。グリダニアでは、黒衣森に漆黒の鎧に身を包んだ、
亡霊騎士が出るという噂が広がっている。
ただの怪談話なら、我々で対処できるのだが、今回の噂は事情が違っていてな……。
なぜなら……いや、やめよう。まずは冷静な第三者の意見を聞きたい。目撃者から事情聴取をしてきてくれないか。

シャンステゥル ： 亡霊騎士……ああ、見たな。上から下までを漆黒の鎧で固めて、森の中を我が物顔で闊歩していたのだ。
情けないことだが……　あのときは恐ろしさで足が震えてしまった。森の樹木ですら、恐れをなしてるように見えたくらいだ。

オノラン ： ……亡霊騎士だろ、ああ、この目で見たよ。チョコボやアンテロープとはまったく違う、
大きな黒い獣に乗った騎士……あれは幽霊なんかじゃないさ。

タタソサ ： ぶるぶるぶる……恐ろしいんだな……。森の中、真っ黒な騎士を見たんだな……。
黒くて巨大な獣を駆る、その不気味な姿……！　きっと、森によくないことが起きる前兆なんだな。精霊様がお怒りなのかな……。

エダン ： 森に現れたあの漆黒の鎧の騎士、……あれはきっと良くないものだ。
あんなに大きく、禍々しい剣を持った者が、害をなさないわけがない……。
……我々鬼哭隊が束になっても、おそらく敵わんだろう。

リュウィン ： ……なるほどな。巨大な黒い獣にまたがった、漆黒の鎧の騎士……か。……残念だが、我々の推測が当たってしまったようだ。

悪神覚醒

リュウィン ： 巨大な黒き獣に乗った、漆黒の亡霊騎士……。これは、聖典において語られる伝説の悪神、「オーディン」の描写と一致する。
我々はこれを蛮神と考えているが……。聖典については、角尊「オ・アパ・ペシ」様がお詳しい。ご意見を伺ってきてもらえないか。
オ・アパ・ペシ様は、現在「クォーリーミル」にいらっしゃるはず。これは重要な任務だ、よろしく頼むぞ。

オ・アパ・ペシ ： お、きたきた。僕は、オ・アパ・ペシ。
あなたが噂の冒険者だね、話は聞いているよ。……悪神「オーディン」のことだよね？
そろそろ来る頃じゃないかと思っていたんだ。
聖典において語られる悪神「オーディン」とは、全てを切り裂く魔剣の持ち主だ。
彼はその魔剣で、多くの民と聖女「ウルズ」を殺している。
だけど、それをアラグの英雄が打ち倒し、森の泉に封じたとされているんだ。……今までそれらは、おとぎ話だと考えられていた。
でも近年、アラグ帝国時代の遺跡が次々に発掘されて、悪神「オーディン」の存在が真実味を帯びてきたんだ。
そんな中での亡霊騎士の目撃情報……。
……聖典によれば、悪神「オーディン」は黒衣森の奥、ウルズの泉で、クリスタルで厳重に覆われ、封印されている、とある。
そして、たしかにあそこにはクリスタルがあるんだ……。冒険者さん、「ウルズの泉」に行って、
クリスタルに異常がないか、確認してきてもらえないかな？
ウルズの泉には、凶悪な怨霊が現れるそうだ。念のため「浄化の聖水」を渡しておくよ。
怨霊……アラガン・ソウルのカを抑えることができるだろう。

オ・アパ・ペシ ： ……悪神「オーディン」を封印したと言われるクリスタル。何か異常はなかったかい？
……かすかに魔力の名残を感じる……封印石かな？　それにしても、恐ろしいほど滑らかな切断面だね。
聖典に記された「魔剣」のカに違いないよ。
噂の亡霊騎士は、間違いなく悪神「オーディン」だろう。しかし、封印を解かれたというのに、なぜ森に留まっている？
……まだ、解き明かすべき謎は多いみたいだね。
ご苦労さま、冒険者さん。この件に関しては「スィミ」が報告書をまとめている。彼女にも報告してもらえるかな？

スィミ ： オ・アパ・ペシ様より、お話は伺っております。ウルズの泉の封印が、破られたのですね……。
……早急に報告書をまとめなくては。